

国際医療福祉大学大学院  
「医療福祉倫理特論」

医療事故から学ぶ、  
そして防ぐ



新葛飾病院  
医療安全対策室

医療事故被害者遺族  
豊田 郁子

平成19年10月10日

## 発病・受診

2003年3月9日の明け方、息子・理貴(りき)が強い腹痛を訴えた為、小児救急外来を2度受診。

## 入院

腹部X-P,CT,浣腸,採血,点滴を施行、採血結果を2時間待った後、家族の希望で入院。11時に病室移動。病棟に危機感は感じられず

## 急死

入院から2時間半後(13時30分頃)

病室に医師が一度も来ないまま、理貴は黒茶色のものを多量に嘔吐し、心肺停止。

16時03分永眠。病院の判断で警察に届出。行政解剖の結果、死因は「絞扼性イレウス」。

# マスコミ報道

病院の不誠実な対応に  
傷つき取材を決心

## 「状況報告書」

看護師 顔色が悪くおなかもふくれている。  
待てそうもないのですが。

当直医 なに考えてる。待たせておいて  
病棟処置中だとか言ってさ。

3分後再び電話。

看護師 すぐに診ていただけませんか。

当直医 いいから待たせておいて

さらに10分後。

当直医 いま顔洗ってるから



# 息子に起きた医療過誤の背景と問題点

## コミュニケーション不足が招いた死

### ● チーム医療

- ・ 当直医の誤診と怠慢⇒引き継いだ看護師まで経過観察が緩慢・誰も病状の悪化に気付けなかった
- ・ 申し送り、経過観察においてチーム医療がなされていないかった

### ● 医師のモラル（道徳・倫理）

- ・ 医師に思いやりの態度と倫理観は必要不可欠
- ・ 担当医は、怠慢としかいいようのない患者への対応だった
- ・ 他科の医師やスタッフとの協力的医療、そして自らの判断能力においても欠けていた

## 医療被害者としての活動

再発防止を願い、2003年12月より医療被害者家族として医療機関・医学部看護学校などで**医療事故**に関する講演活動や小児医療を支援する活動を開始。



## 医療従事者としての活動

活動のなかで、新葛飾病院院長と出会い、2004年10月より新葛飾病院医療安全対策室に勤務。  
**安全対策と同時に「医療事故被害者救済」の取り組みを病院内で実践するための活動も開始。**

# 患者支援室

## からだ学習館（患者図書室・相談窓口）設置

### 相談窓口設置場所

管理棟1階：からだ学習館内

医療相談員構成メンバー

### 看護師、社会福祉士

（病状や診断内容など）

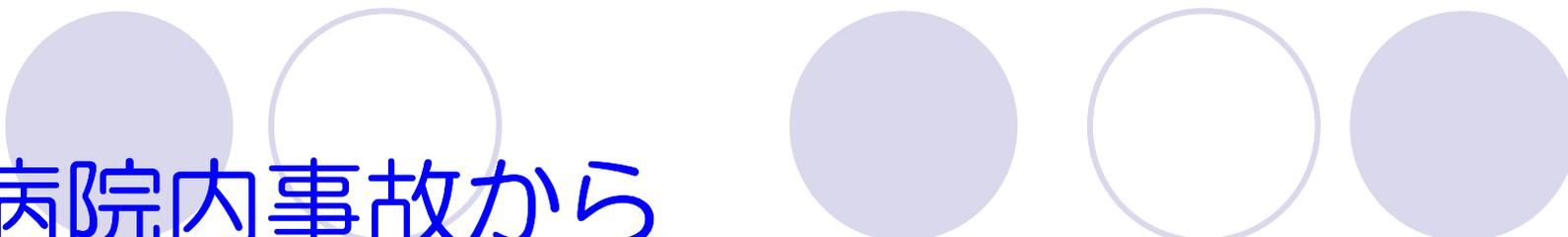
予約相談 毎週月・木午前9時～12時

### セーフティーマネージャー

（システムや苦情）

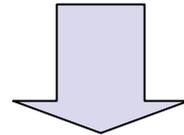
相談受付 月曜～金曜まで（祝日を除く）





病院内事故から  
患者を守るためには

**Risk Management**



コミュニケーションエラーを防ぐことの重要性

●職員の意識向上 ●コミュニケーション能力の向上

# 新葛飾病院 医療安全対策委員会

## ワーキンググループ管理活動

医療安全からみた自院で最も注意すべき部門を3つに分類

### ●点滴・接続グループメンバー

救外看護師(リーダー)  
副院長(兼,整形外科部長)  
臨床検査技師  
看護師(2名)  
薬剤師  
臨床工学技士  
放射線技師  
総務課事務

### ●投薬グループメンバー

薬剤師(リーダー)  
副院長(兼,心臓血管外科部長)  
臨床検査技師長  
看護師(3名)  
管理栄養士

### ●転倒グループメンバー

病棟看護師長(リーダー)  
整形外科医師  
臨床工学技士長  
医事課事務  
理学療法士(2名)

# 医療安全に関する職員調査

## 質問内容

1. 看護職経験年数
2. 医療行為を行うときに、不安に感じることがありますか
  - 1) 不安に感じたのは、どのような医療行為ですか(18項目複数選択)
  - 2) 不安に感じたとき、あなたはどのようにしていますか(4項目複数選択)
  - 3) 不安に感じたとき、あなたはどのような支援をしてほしいと思いますか(自由記載)
3. 日々の業務に関して、リスクが高いと思うことがありますか
  - 1) リスクが高いと感じるのは、どのような業務ですか(13項目複数選択)
  - 2) リスクが高いと感じたとき、あなたはどのようにしていますか(4項目複数選択)
  - 3) リスクが高いと感じたとき、あなたはどのような支援をしてほしいと思いますか(自由記載)

# 輸液ポンプ・シリンジポンプ勉強会

テーマ「医療用ポンプの正しい使い方」

対象：看護職員



# 医療被害者を招いて医療事故から学ぶ

## 医療安全院内研修会

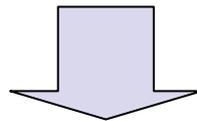
H17年2月3日  
医療安全院内研修セミナー  
「インフォームド・コンセント  
について」  
癌の告知（説明不足による認識の違い）

説明不足による当院の医療被害者  
ご家族が、当時の状況や心境を語り、  
弁護士からは説明義務違反について  
講演。インフォームド・コンセントの重要  
性について勉強会を行った。



医療事故が起きてしまった時、  
医療者に求められる誠実な対応とは..

## Conflict Management ?



- 被害者は何故「救済」されていないと思うのか
- 患者側からみた裁判外紛争解決のイメージ
  - ・ 医療ADR? ・ 第三者機関? ・ 無過失補償制度?



## 患者と医療者の意識の差

- 息子の事故後、生じた不信感

患者が医療被害を二重、三重に受けたと思う時

(どこから不信感になってしまうのか)

- ・ 病院の対応（事故直後）
- ・ 記者会見
- ・ 遺族の問いかけに対して病院が出す回答
- ・ 病院内での再発防止の取り組み

# 入院生活を応援するために

## 入院生活応援シート

安心した入院生活を送れるために、患者さま、ご家族さまにお伺い致します。

1. 新葛飾病院に入院されるのは初めてですか。 はい・いいえ
2. 入院生活に心配はありますか。 はい・いいえ
3. 2で「ある」と答えた方は、どのようなことですか。

下記の中からあてはまるものに○をつけてください。

- ・入院生活のこと
- ・退院後の生活
- ・治療のこと
- ・医療費のこと
- ・その他（ ）

4. 上記について、相談員に相談してみたいと思いますか。 はい・いいえ
5. 相談は急ぎますか。 はい・いいえ
6. どこで相談したいと思いますか。 病室・病室以外

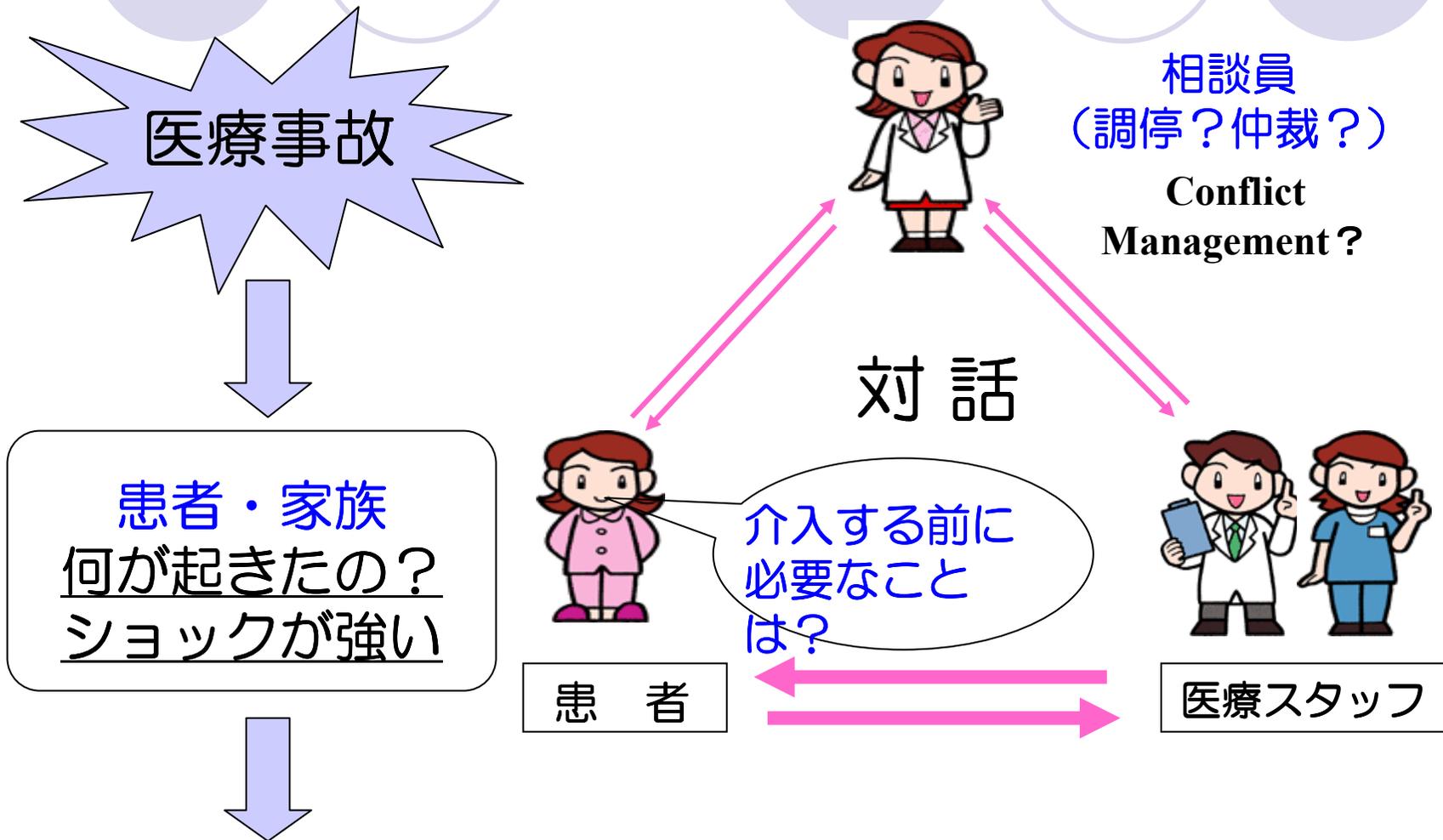
\*相談ご希望の方は、ご記名ください。 部屋番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

7. 要介護認定を受けている方は、あてはまる介護度に○をつけてください。  
( 要支援 1 2 要介護 1 2 3 4 5 )
8. その他なにか気になることがありましたらご記入ください。  
( )

相談内容については、守秘致しますので、ご安心ください。

新葛飾病院 患者支援室

# 院内相談の在り方を考える



第三者的に職員が介入する前に,当該部署で必要なこと

# 新葛飾病院 院内研修会

- ・ 医療者間の対話を促進するための研修会を月1回実施  
対象者：全職種 （18：30～20：30まで）  
参加人数：30人程度



## 向き合うことの大切さ

- 患者さんの声に耳を傾ける  
(聴く)
- 相手の身になって考える  
(想像する)
- 対話をもつよう努力する  
(コミュニケーション)

# 被害に遭った病院との現在の関係と いま病院に対して思うこと

- 2004年1月、警察に被害届けを提出
- 2005年9月、病院と和解
- 2006年10月、不起訴が確定
- 理貴の命日(3月9日)には、  
毎年、医療安全院内研修会を実施

—病院に対する気持ちの変化— 昨年の命日での出来事

- 本年度(平成19年度)の研修会で講演  
(遺族と職員との間で、この時初めて対話が成立し、良い関係に)

# 厚生労働省

## 診療行為に関連した死亡に係る死因究明等の在り方に関する検討会（平成19年4月～開催）

### 趣旨

診療行為に関連した死亡に係る死因究明の仕組みやその届出の在り方について整理するために開催するもの。

### 検討課題

- 1) 死因究明のための調査組織の在り方
- 2) 診療関連死の届出制度の在り方
- 3) 医療における裁判外紛争処理制度の在り方
- 4) 行政処分の在り方

（厚生労働省資料より抜

粋）

**これまでの議論の整理**（平成19年8月公表）

—「診療行為に関連した死亡の死因究明等のあり方に関する課題と方向性」に沿って—